

2021年9月10日

発表レジュメ 海外教育旅行のリスクマネジメント～安全配慮義務の視座から～

放送大学大学院後期博士課程

古川 彰洋

日本人の海外教育旅行は、COVID-19による影響を大きく受けて、一年半その流れが完全に止まっている。徐々に、イギリス、アメリカでの留学生の受け入れが始まっている。また、日本の文部科学省から大学間交流協定に基づく1年間の海外留学再開について各大学へ周知された。今後、ワクチン接種が進み、COVID-19が収束していけば、日本人の海外教育旅行も徐々に復活すると予想できる。しかし、安心安全な海外教育旅行を実施する条件を整えることが大前提である。海外教育旅行のリスク管理と安全対策について、安全配慮義務の視座から海外教育旅行のリスクマネジメントを分析するために、大学の教職員に対してアンケート調査を実施した。以下について発表する。

1. 方法

以下リスクマネジメントセミナーを実施後、参加者に対してWEBアンケートを実施した。

- ◆開催日時： 2021年8月25日（水）15:30～16:45
- ◆参加対象： 主に大学教職員
- ◆開催形態： オンラインセミナー
- ◆開催内容： ・新型コロナウイルス感染対策 東京医科大学濱田篤郎特任教授
・海外支店レポート ロサンゼルス支店・バンクーバー支店
・留学中における学生サポートサービス

- ① 対象 上記セミナー視聴者：286名
- ② 調査期間：2021年8月25日（水）～8月31日（火）
- ③ 調査方法 上記セミナー視聴者に対して、セミナー終了後QRコードによるWEB質問紙アンケート調査
- ④ 分析モデル ステークホルダの安全配慮義務に対する意識がステークホルダの行動を促すこと、また同様に学生の安全に対する意識が行動を促すことが、海外教育旅行がより安全に成功する要件である。その要件成立のために、海外教育旅行のステークホルダの組織、人、ルールが因子となって寄与する。
- ⑤ 質問概要

2. 結果

回答者：43名 回答率：15.0%であった。多くの大学の教職員が海外教育旅行のリスク管理と安全対策に意識を持って行動していることが分かった。大学と学生間の連絡は、大学から学生への方向は良く意識されて実施されているが、学生から大学への連絡の方向はそれほどでないこと、下見はそれほどされていないこと等、大学のリスクマネジメントとして考慮する余地があることが分かった。

3. 考察

過去の経験をよく活かして対応している状況が見られた。ステークホルダ間および学生との間で過去のトラブル、事故事件の情報の共有ができれば、大学全体のリスクマネジメントの質の向上が図れる可能性が示唆された。

以上